

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 3 月

○ 概要

(1) 平成 29 年 3 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,822 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲8.7%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,204 円（伸び率▲6.5%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,685 億円（伸び率▲0.5%）、薬剤料が 5,125 億円（伸び率▲11.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 823 億円（伸び率▲3.4%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,573 円（伸び率▲10.8%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.78 種類（伸び率▲0.3%）、23.4 日（伸び率+3.0%）、85 円（伸び率▲13.2%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 4,131 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲614 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 869 億円（伸び幅▲94 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 13 億円（総額 273 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,131 億円 (▲614 億円)	21 循環器官用薬 (869 億円)	11 中枢神経系用薬 (683 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (563 億円)
0 歳以上 5 歳未満	39.2 億円 (▲7.9 億円)	44 アレルギー用薬 (17.8 億円)	61 抗生物質製剤 (8.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	119 億円 (▲15.3 億円)	44 アレルギー用薬 (62.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (17.6 億円)	61 抗生物質製剤 (12.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,477 億円 (▲239 億円)	11 中枢神経系用薬 (295 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (207 億円)
65 歳以上 75 歳未満	1,003 億円 (▲201 億円)	21 循環器官用薬 (261 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (166 億円)	11 中枢神経系用薬 (116 億円)
75 歳以上	1,492 億円 (▲151 億円)	21 循環器官用薬 (342 億円)	11 中枢神経系用薬 (254 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (184 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,204 円（伸び率▲6.5%）で、最も高かったのは京都府（10,891 円（伸び率▲11.1%））、最も低かったのは佐賀県（7,830 円（伸び率▲11.2%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲3.3%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率▲11.2%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 823 億円（伸び率：▲3.4%、伸び幅：▲29 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	68.6%	+5.5%
薬剤料ベース	16.1%	+1.3%
後発品調剤率	67.4%	+2.5%
（参考）数量ベース（旧指標）	45.4%	+2.9%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.4%	+7.4% (0 歳以上 5 歳未満)	▲9.0% (60 歳以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.1%	16.9% (75 歳以上)	11.2% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	729 億円 (▲29 億円)	21 循環器官用薬 (192 億円)	23 消化器官用薬 (113 億円)	44 アレルギー用薬 (97 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.2 億円 (+0.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (1.7 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	18.4 億円 (+0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (10.9 億円)	61 抗生物質製剤 (3.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	257 億円 (▲9 億円)	44 アレルギー用薬 (59 億円)	21 循環器官用薬 (54 億円)	11 中枢神経系用薬 (35 億円)
65 歳以上 75 歳未満	178 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	23 消化器官用薬 (28 億円)	33 血液・体液用薬 (19 億円)
75 歳以上	270 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (77 億円)	23 消化器官用薬 (52 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,110 円	1,469 円（岩手県）	914 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.0%	+3.6%（徳島県）	▲5.3%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	68.6%	79.9%（沖縄県）	59.1%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.1%	20.3%（鹿児島県）	13.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	67.4%	78.7%（沖縄県）	59.9%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	45.4%	56.2%（沖縄県）	39.3%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 29 年 3 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。